水俣・芦北地域戦略プラットフォーム
第23回地域戦略検討会のお知らせ
（第38回課題検討会）

『エネルギーを選ぶ』シリーズ②

川内原発の再稼働を問う
周辺自治体における避難計画の観点から

川内原発は再稼働第1号になりそうで、40キロの距離にある水俣は、鹿児島県出水市からの避難者の受け入れ先になっています。実際避難するとなると大変なことだらけで、出水市の避難計画は進んでいません。しかも、過酷事故の時には、水俣の人たちも逃げるでしょう。アメリカでは避難計画の整備は原発稼働の必須条件ですが、日本はそうではありません。4月5日、反原発活動を続けてきた全国の仲間や、川内現地からも参加して、再稼働を止めるための作戦会議を水俣で開き、「原発避難計画を考える水俣の会」が発足しました。福島事故で被災した人たちの悔しい思いや、言葉では表せないもがきに連帯するために、常日頃、命を一番大切に思っている私がつい口走った「命を懸けて再稼働を止めたい」という気持ちが今です。過疎地の原発周辺で暮らしている人が棄民にされようとしています。こんな犠牲を新たに強いる再稼働、これでいいのでしょうか？（永野隆文さん『かんくま通信』より抜粋）

47NEWS HPより

今回の水俣・芦北地域戦略プラットフォーム地域戦略検討会では、川内原発再稼働問題について、特に「避難計画」の観点から問い直します。
川内原発の周辺自治体として、水俣市は原発事故の発生を想定し、市民が「いかに逃げるか」ということのみならず、市外からの避難者を「いかに受け入れるか」ということについて十分に備える必要があるはずですが、計画策定のメドも立っていないのが現状です。このまま再稼働へ進んでいって良いのでしょうか。
みなさんのご参加をお待ちしております。

話題提供 原発避難計画を考える水俣の会

永野隆文さん　大嶽弥生さん

コーディネート 宮北隆志 熊本学園大学 水俣学現地研究センター長

日時 2014年10月27日（月）19:00～21:00

場所 熊本学園大学 水俣学現地研究センター

水俣市浜町2-7-13（水俣市公民館裏、婦人会館向かい） TEL・FAX 0966-63-5030

「水俣・芦北地域戦略プラットフォーム」世話人会・事務局
熊本学園大学水俣学研究センター　藤本延啓

「水俣・芦北地域戦略プラットフォーム」とは

「負の遺産」としての水俣病事件をベースに、人間としての生き方、日々の暮らし、地域社会（教育、環境、福祉、経済、政治など）のあり様を問い直そうとする市民、NPO、研究者、民間事業者、行政職員など多様な関係者の〝出会いの場、学習の場、討議の場〟であり、また、〝新たな価値（生活文化）を創造する「場」〟として位置づけられた舞台（プラットフォーム）です。

熊本学園大学
KUMAMOTO GAKUEN UNIVERSITY